

平成27年度 晃英館中学校・山口県桜ヶ丘高等学校普通科晃英館コース学校評価(自己評価)

3:達成できた・概ね達成できた 2:一部達成できた、不十分 1:達成できなかった

評価領域	重点項目	評価	反省と課題
学級経営	1. 基本的生活習慣の確立 ○中学 ・生活ノートの活用 ・自己管理の習慣づけ ○高校 ・上級学年としての自覚ある行動を意識させる。 ・学校を支える存在として自立的・積極的行動ができるよう指導する。	2	・自己管理できるようになった生徒が増加した。 ・個々の生徒に応じた働きかけなどが必要である。 ・保護者との連携も場合によっては必要である。 ・生徒の主体性を尊重しつつも、場合によっては教師の積極的な働きかけが必要である。
	2. 学習習慣の確立と質的深化 ○中学 ・生活ノート、家庭学習記録の定期的な確認による状況把握と適切な指導 ・個々に応じた目標設定と指導 ○高校 ・大学入試を意識した主体的な学習習慣の確立 ・各自の進路目標の具体化と課題の明確化	2	・個人面談の回数が十分ではなかった。 ・個々の生徒に応じた指導が十分ではなかった。 ・教科担当との連携が必要である。 ・中学時よりは積極性が見られるようになった。 ・学習習慣が確立していない生徒への個別対応が十分ではなかった。
	3. 進路意識の高揚 ○中学 ・進路学習、職場体験、立志式を通して、具体的な進路目標を設定できるよう指導する。 ○高校 ・進路学習、オープンキャンパスレポートなどを通して、進路目標を具体化するよう指導する。 ・時期に応じて具体的な数値目標を設定させ、あらゆる状況に柔軟に対応できるよう指導する。	3	・進路に対する意識は高まったが、学習に結び付けることができなかった。 ・進路指導、オープンキャンパスレポートを通して、確実に進路に対する意識が高まった。 ・大部分の生徒が納得のいく進学先を実現できた。
	4. 望ましい集団づくり ・他を思いやり、異なる意見を尊重できる集団を構築する。 ・集団の一員としての意識を高め、集団における自分の役割を責任をもって果たすよう指導する。 ・集団行動のなかで、状況をふまえた行動がとれるよう指導する。 ・学校行事への取組を通し、積極性、協調性を養う。	2	・他を思いやる態度を育てることが十分にはできなかった。 ・集団の中での積極性を養うことがあまりできなかった。
学習指導	1. 主体的な学習習慣の定着 ・基本的生活習慣の確立を基盤に、自学自習できる生徒を育てる。 ・本校における中高一貫教育の3段階に沿った指導を徹底する。	1	・中学段階では、進んで職員室に質問に来る生徒が少ない。
	2. 学力伸長 ・各生徒の個人的なレベルに対応できるよう、きめ細かな教材を工夫する。 ・個別指導を継続して実施する。 ・中学の英語、数学で一部習熟度授業を取り入れ、理解度を高める指導を行う。	2	・放課後等を利用して個別指導を実施したが、生徒の要求に十分に答えることができなかった。 ・習熟度授業については、試行錯誤段階ではあるが、生徒の学習活動を支援する取り組みが実施できた。
	3. 大学入試改革への対応 ・新制度の研究とそれに対応した教育内容・活動の研究	3	・今後も記述力を強化する指導が必要

進路指導	1. 進路に対する目的意識を高める(主に中1、中2)。	2	・中1生への働きかけが不十分であった。
	2. 主体的な学習態度を育成し、より具体的な進路探求を促す(主に中3、高1)。	3	・中3、高1生は、クラス担任の協力もあり、充実した活動を実施できた。
	3. 進路希望実現に向けた効果的な受験指導を行う(主に高2、高3)。	2	・高2生への対応が不十分であった。
	4. 模擬試験の活用により、各学年の集団としての意識を高める(学年に応じた数値目標の提示とその達成に向けての働きかけ)。	3	・数値を意識する空気が少しずつ定着してきた。
生活指導	1. 生徒理解の深化と適切な人間関係の形成 ・携帯電話使用についての講習会を実施し、メール等を使用したいじめ防止に努める。 ・Fitを毎学期実施し人間関係等各生徒の状況について把握し、指導に役立てる。	2	・今後も生徒の小さな変化を見逃さないように細心の注意を払う必要がある。
	2. 安全教育(特に交通安全) ・交通安全教室・指導等で交通マナーを守り、安全に通行するよう指導する。	2	・1年間無事故という目標は達成できなかったが、重大事故が発生しなかったことは幸いである。 ・引き続き交通安全の啓発に努める必要がある。

